

## 時過ぎて60年一旅と山と教室で出会った人たち⑦ 大西清見

## モンブランへ (続)

モンブラン登頂のあしあと (山行報告) より抜粋、の続きです。

8月1日午前2時起床、2時50分グーテ小屋を出発。隊列は前日と同じPerryさん・大西・Hさんとロープでアンザイレン。ヘッドランプの明かりを頼りに幅の広い雪稜を登って行きました。空は満月に近い月夜で先に行くいくつかのパーティのスムーズな流れが美しいルートを描いています。岩の上に建つヴァロ小屋やいくつかの急な雪稜を越えて最後の突起へ、丁度その頃がマッターホルン辺りからのご来光でした。その朝陽をいっぱい浴び、最後の力を振り絞って細い頂稜の最高峰に立つことができたのでした (4810m、登頂6時30分)。今までで一番苦しい登山でした。今までで一番、最後の最後まで力を振り絞って登りきったモンブランでした。HさんやPerryさんと一緒に撮った記念写真もその喜びでいっぱいです。周囲の展望も快晴で素晴らしくヨーロッパ大陸全部が見渡せるほどのスケールの大きさです。「人はなぜ山を目指すのか」「人はなぜ最高峰に憧れるのか」、そのテーマの答えの一つに触れたような瞬間でした。

【山頂までの歩行時間：3時間40分】

下山は往路と同じルートでしたが、その標高差は3000mでかつて経験したことのないハードさでもありました。ロープウェイのベルビュー駅に着いたのが午後2時10分、この日延々11時間ほど歩いたことになります。このモンブラン登頂にはHさんは勿論、ガイドのPerryさんのリードとアドバイスがあったからだとても感謝しているのです。このPerryさんから学んだことも多々ありました。その一つが登山道の歩き方の基本です。ショートカットをしたくても決して正規のルートは外しません。ショートカットすることによってルートが崩壊していくからでしょう。また、落石などの危険な個所はいつも「quick!」と言って、私たちや他の登山者にも安全確保に集中していました。このモンブラン登山のPerryさんとの出会いは、今後の私の登山に対しても大きな力となることは間違いありません。



2007年8月1日、ヨーロッパ最高峰・モンブラン (4810m) 登頂。この朝はヨーロッパ大陸全部が見渡せるほどのスケールの大きさでした。

## ◇編集後記◇

6月21日～22日、高島市生杉（周辺を針畑郷という）へ、多彩なメニューの針畑郷の二日間でした。21日は小浜に通じる林道でおにゅう峠までマイカーで行き、おにゅう峠から根来坂を超えて百里ヶ岳までの高島トレイルを歩きました。鯖街道の根来坂は歴史ある峠で、戦国の武将も超えたとか。百里ヶ岳山頂まではブナの優先の登山道を歩いていきます。新緑で美しい森でした。この日の泊りは中牧の針畑休憩所、診療所と兼ねておりとてもゆっくり寛げる宿でした。21日は午前10時から朽木中牧の大宮神社で大祭り、毎年田植えが終わったころの祭事だそうです。古来からの格式のある拝殿で祝詞、そのあと湯立（湯かけ）の神事が始まりました。お神酒を入れた湯を笹でかけてもらおうと無病息災、初めての体験でした。この祭りのあと、伊勢大神楽の一行が到着するというので西川明夫さん宅へ行きました。神楽は毎年6月20日（今年は21日）針畑地区にやってきて、一軒一軒順番に舞ってくれるそうです。二匹の獅子の舞で、笛と太鼓の音が針畑郷に響きわたっているようでした。このあと神楽の方や地域の人たちの楽しい昼食となりました。針畑郷の活性化を願い激励に来られた元嘉田滋賀県知事の「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する（昭和62年、嘉田知事が古屋のおばあさんから聞いた話）」という琵琶湖へ注ぐ針畑郷の河川のメッセージが印象的でした。また、来年も針畑郷へ来てみたいものです。（大西清見）



百里ヶ岳に続くブナの美しい森



西川邸で舞う二匹の獅子（伊勢大神楽）

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぽんぽん山（高槻）、奈良県連ニュース滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

発行日 2019年（令和元年）6月24日 No.400

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、服部、大西清

\*\*\*\*\*